

令和4年度小平市立花小金井南中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

課題

学習指導要領の内容における知識及び技能、思考力、判断力、表現力等の項目がすべて全国平均より高い。情報の扱い方に関する事項、書くことのポイントは全国平均より 4.9 ポイント高かったが、この2項目はその他の項目と比べると大きく低かった。

書くことの問題では正答率が下がり、最大 7.9% の無回答者がいた。分析により、一つの正解にたどり着くことに多くの生徒は長けているが、自らの知識を組み合わせることを苦手と感じる生徒が多いことが分かった。今後、自らの考えをアウトプットする機会を増やす指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・単元を終える際に、単元に関連しながら深く考える課題を用意し、得た知識等を活用して文章を書く活動を行わせる。
- ・授業の中で、自分の意見を小グループで交流する機会を設ける。交流後には、自分の意見に修正を加えるなどさせ、考えを深めさせる。それによって自分の考えを表出すること、他人の考えを聞くことの有用性を認識させる。
- ・意見文の発表や、集団討論、話し合い、ディベートといった、自分の意見をもつこと、それをアウトプットすることを目的とした「話す」授業を行い、意見の書き方や話し方の技術的・具体的な指導を行う。

【数学】

状況の分析

課題

学習指導要領の内容における数と式、図形、関数の項目は全国平均より 11 ポイント以上高い。またデータの活用に関しても 9.6 ポイント高かった。思考・判断・表現の観点に注目すると 13.3 ポイント全国平均よりも高い (49.5%) が、正答率は知識・技能 (71.8%) と比べると 22.3 ポイント低かった。また解答形式では記述式がもっとも正答率が低い (49.5%)。

表現すること、説明すること、説明を完成させる問題において無回答率が 10% 越え、正答率が低かった。分析によりインプットした知識を活用し、表現していくことへの苦手意識を感じている生徒が多いことが分かった。今後、表現の機会を増やし、自分で答えまでの道すじを考え、表現していく指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

数と式、図形や関数の項目や知識技能の観点に関しては、高いレベルであるので、引き続き、演習や家庭学習に取り組みさせていきたい。思考・判断・表現の観点や説明する力を高めるために、少し難易度の高い課題に取り組みさせていきたい。また、普段の授業の中でもグループワークを取り入れ、小グループの中で説明する機会を増やし、筋道を立てて考える力を育てていきたい。

【理科】

状況の分析

課題

学習指導要領の内容におけるエネルギー、粒子、生命の分野において全国平均よりそれぞれ約 10 ポイント高く、もともと正答率の低い地球の分野（50.8%）においても全国平均より 6.5 ポイント高い。評価の観点では正答率に差が見られないが、問題形式では短答式の問題の正答率がもともと低かった。

考察の妥当性を高めるための説明する問題では無回答者が 21.1%であった。また、短答式の正答率が低く、27.6%であった。分析により、考察をより高めるための発想を生み出すこととそれを説明する力に関して課題が見られる。また、短答式の結果から分野をまたぐ知識と技能を関連付けて、目の前の問題に対して分析して、解釈することに関しても課題が見られた。

学校で取り組む具体的な改善策

新たな発想を促す機会、表現する機会を増やすことと分野をまたいだ理科としての体系的な知識を習得させていく指導が必要である。一つ一つの課題や問題に対して、話し合い、意見を共有し、新たな発想や自分の考えの深まりを促す機会を増やしていく。またそこで生み出された発想や考察を表現する場をつくり、言語化能力の向上を意識した指導を行う。実験の指導については、結果の共有、考察の共有、深めた考えの表現の場を設定することを見越した準備、声掛け、課題設定を考えていく。また表現の機会を小グループ単位で全員に与えることと優れた表現をクラスで共有し、さらに自分の考えを深める時間を設けていく。

【質問紙】

状況の分析

課題

生徒質問用紙では、ほぼすべての項目で全国・東京都の数値を上回っている。ゲームやスマートフォンの項目が使用時間、マナー、モラルの点で自立したコントロールができていないことが回答結果からわかった。数学の授業では、社会に出た時のイメージと普段の生活の中で活用するイメージをとれていない生徒が一定数いることがわかった。

スマートフォンの SNS 利用やゲームの使用に関する家庭での約束事や自立したマナーやモラルの習得について考える時間を設定し、生徒をとって保護者と共有し、家庭で話し合いの機会を設けてもらう必要がある。

数学に関わらず、自分の将来や生活に既習事項がどのように結びつかイメージをもたせていくような指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

全国学力・学習状況調査で課題となった点を生徒・教員が各々で確認・検討し、生徒自身が学習に興味や関心をもち、主体的にとりくんでいく。その過程で学びの目的が明確になり、「学ぼうとする力」が獲得されていく。課題を自分で考え、工夫をし、自らやってみて取り組むことなどにより、「学びとる力」が獲得されていく。さらにここから「わかった、できた、解決した」というような状況に至り、「学んで得た力」形成される。「学んで得た力」に含まれる達成感や成成感、さらに次の問題解決への意欲を引き出すことができる。これらの活動のサイクルにより「確かな学力」が形成されていくと考える。

継続して「自分で考える」→「自分の考えを授業で確認する」→「理解を深める」自主学习を推進する。具体的には感染症対策を続け、意見交換の場面を増やし、考えを共有し、自らの考えの深化をはかり、学習意欲の向上を図る。また、ICT 機器の活用やチームティーチング、少人数指導などの指導体制を充実させ、生徒の自主的な活動を推進する。